右十四首、中臣朝臣宅守、

〔日本釋名人事中〕夢　ゆは、ゆうべなり、下略也、めは、見る也、みとめと通ず、ゆうべに見る也、一説、いね見也、いとゆと通じ、みとめと通ず、ねを略す、

〔榮花物語見はてぬ夢四〕粟田殿道兼○藤原ゆめ見さはがしうおはしまし、○下略

〔伊呂波字類抄疊无字〕夢想

〔玉海〕治承四年三月十七日己巳、自今日三箇日、奉幣帛於大原野社、依有夢想事也、

〔歌林良材集上〕夢をかべといふ事夢をばぬるにみるによりて、夢をかべとはいへり、かべもぬる物になるによりて也、

〔圓珠庵雜記〕ゆめをかべといふ

眞淵云、むかしは、いめとのみいひたり、いつの比よりゆめとは誤りけん、後撰戀一、まどろまぬかべにも人を見つる哉まさしからなん春のよのゆめ、

〔後撰和歌集九戀〕源おほきがかよひ侍りけるを、後々はまからずなり侍てければ、となりのかべのあなより、おほきをはつかにみて、よみてつかはしける、

まどろまぬかべにも人をみつるかなまさしからなん春の夜の夢　するが

〔八雲御抄三下人事〕夢　ぬるたまとも云後抄

ぬばたまのゆめは、たゞ夜の心也、ぬば、むば、いづれも同事也、夢ぢ　ゆめのうきはし　夢のただち

〔藻鹽草十六人事〕夢○中略

春の夜の夢○中略　うき夢　夢かるゝ、さむるなり　夢覺　はかなき夢　見はてぬ夢世間の事にも云り　夢をはかなみまどろめば　みる夢　夢かよふ○中略　冬の夢　まどろむ夢○中略　初夢○中略　うき世の夢○中略　みよのことまでみゆ